

学 位 論 文 審 査 の 要 旨

		要 旨
学位申請者	市原 明日香 【比較社会文化学専攻 2015年度生】	<p>本論文の研究目的は、日中母語場面及び接触場面の会話における「後日再会時における再感謝（以下「後日の再感謝」）」の言語行動と談話の特徴を比較し、その異同を明らかにすることである。日中母語場面の比較、母語場面と接触場面の比較、両場面の会話の個人別比較から構成される。</p> <p>結果、第一に、日本語の「後日の再感謝」が「コンテキスト化の慣習」であるのに対し、中国語では必ずしもそうではないこと、談話中の出現位置や感謝ストラテジーの種類で、日中両語に差異が明らかにされた。</p> <p>第二に、日中接触場面では、中国語母語学習者も日本語母語話者も自らの発話を調整しない傾向が指摘されたが、一方で、同一話者の母語と日本語を比較すると、両言語の差異を埋める調整行動もみられた。</p> <p>本研究は感謝の語用論研究と接触場面研究の領域に跨り、接触場面での異文化間コミュニケーションに新たな知見を加えるもので評価に値する。</p> <p>審査は2回行われた。1回目の審査では、「感謝」と「再感謝」の関連、ストラテジーの分類や用語の使い方などに大小様々な問題が指摘された。申請者はこれらの指摘を踏まえ、丁寧に改稿を行った。公开发表会では、論文全体の内容についてわかりやすい説明がなされ、その後の質疑応答に対しても的確な回答を行っていた。最終審査会では、第一次審査でのコメントに基づき修正がなされていること、本研究の意義が認められることで、満場一致で博士（人文科学）(Ph. D. in Applied Linguistics) が全会一致で付与された。</p>
論文題目	「後日の再感謝」の談話分析研究—日中の母語場面と接触場面の比較から—	
審査委員	(主 査) 教 授 森山 新	
	(副 査) 准教授 西川 朋美	
	(副 査) 助 教 本林 響子	
	(審査委員) 准教授 伊藤さとみ	
	(審査委員) 教 授 佐々木泰子	
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 否)</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 10px;"> <p>ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p>イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p>ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p>エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p>オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> </div> <p>※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	